

# 「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当:斎藤登美夫



◆◆◆ No.0492 ◆◆◆

18/07/18

## 【 米のドル高シーリング、「113 円乗せ」ぐらいから要注意!? 】

ドル/円相場は、5 月高値の 111.39 円を上抜けたあとも続伸し、ついに 113 円レベルへ。113.39 円の年初来高値更新も視界内に捉えた動きとなっている。新たなステージ入りした感を否めず、材料的にもテクニカル的にも、さらなるドル高・円安への動きを予想する声は少なくないようだ。しかし、そうした状況下、筆者のような「古参」の市場参加者には、気になる「トラウマ」がジワリと思い出されつつある。具体的には、ドル/円の 113.60 円、1993 年に発せられた「ベンツェン・シーリング」がそれだ。もちろん、当時と相場を取り巻く環境も違えば、政治要因・ファンダメンタルズなども異なる。当時の「ドル高シーリング」が、そのまま適応されることはないだろうが、「ドル高シーリング」についての話は、頭の片隅に留めておいて損はない気もしないではない。

### ◎トランプ政権下では「112-115 円」にドル高懸念発言多い

前述した「ベンツェン・シーリング」について、筆者は昨年 10 月 25 日付の当レターで、一度取り上げている。まずは、それをいま一度掲載してみたい。

「かつて自動車を中心とした日米貿易摩擦が本格化していた 1993 年 1 月、クリントン政権下で米財務長官に就任したベンツェン氏は、貿易不均衡是正を目的として、マーケットで大きな波紋を呼ぶ『ドル/円相場の 113.60 円が天井』と示唆する発言を行っている。これをキッカケに、1995 年 4 月の 79.75 円(当時の戦後最安値)まで、ドル安・円高が進行することになるのだが、様々なトランプ米大統領の発言などを考慮すると、先でも指摘したように日米貿易問題をめぐる状況は当時と非常に似通っている。改めて指摘するまでもなく、20 年以上前の発言だが、いまなお色褪せない迫力があり、ひとつのメルクマールになる気がしないでもない」ー。

また、前述した「ベンツェン・シーリング」以外、トランプ大統領誕生以降という比較的最近の米要人発言と為替相場の関係を調べたところ、なかなか興味深い相関性がうかがえる。こちらについても、昨年 10 月 25 日付のレターで詳細をレポートしており、要旨だけを取り出せば、「ドル高懸念発言の多くは 112-115 円で聞かれている」ーことだろう。ともあれ、興味のある方は是非バックナンバーを参考にして欲しいのだが、ここで一例だけを挙げれば、昨年 7 月 8 日に実施された日米首脳会談でトランプ氏が「米国に対日赤字という課題がある」と言及した際の為替レベルは 113 円後半であった。例え、偶然だったとしても、これだけ続くとやや気持ちが悪く何やら勘繰りたくもなるだろう。

一方、改めて指摘するまでもなく、米国は最大の貿易赤字国である対中国を中心に、欧州や日本、韓国、カナダ、メキシコなど全方位と「貿易戦争」状態に陥っていることは周知のこと。幸運なことに、そのなかで為替に関する言及、つまり米国から「為替操作国」に認定された国はまだひとつもない。日本はもちろん、中国も最新の「為替報告書」において、認定を免れている。しかし、少し先の話になるが、次回 10 月に発表される報告書でも同様の結論になるかどうかはわからない。タイミング的に、米中間選挙直前の公表という点も気になるところだ。

いずれにしても、過去の事案や米国を取り巻く環境を考えると、どの程度のレベルまで米国は「ドル高を許容」してくれるのだろうか? 本気の口先介入、「恫喝」はもう少し先になるにしても、筆者は 1 ドル=113 円乗せぐらいから、「やんわりとした最初の警告」が発せられても不思議ではない気がしている。(了)



当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。

なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

